

追悼文

大分大学 研究マネジメント機構 准教授

国立大学法人 機器・分析センター協議会 技術人材委員長 西口宏泰先生

協議会技術人材委員会委員長を務めておられました西口宏泰先生が本年 3 月 6 日にご逝去されました。突然の訃報に言葉を失い、いまだ深い悲しみの中にあり、その報を受け止めきれない思いです。

西口先生は、約 20 年にわたり研究基盤の整備と発展に携わられ、大分大学、さらに我が国の教育研究を足元から支える重要な役割を担ってこられました。

もちろん当協議会での活動においてもその歴史は長く、2013 年は幹事校、2014 年は副会長校の実務担当者として東京農工大と宇都宮大学でそれぞれ開催された総会の運営に尽力されると共に、2015 年は自らが主導される形で大分大学にて開催された総会を成功裡に導かれました。また 2018 年には協議会内に設置をされた「技術サポート人材検討委員会」に次期新会長となられる松本先生らと共に参画をされ、今ではあたりまえとなった技術人材に関する諸問題を早い段階から理解され、議論を尽くされてきました。そして常任幹事会が設置された新生第 1 期幹事会に事業検討委員会委員として参画され、2021 年 10 月には協議会として初めての試みの小集会の企画・運営を担われました。その小集会は文部科学省大学研究基盤整備課課長補佐をお招きし、「大学等における研究設備・機器の共用化のためのガイドラインについて」をテーマとして開催され、100 名を超える参加を得るなど、大きな反響を呼びました。当時、このような新たな取り組みを実施するのは決して容易なものではありませんでしたが、西口先生はその意義を深く理解され、率先してその実現に尽力されました。そのご尽力があったからこそ、小集会は協議会の重要な活動として定着し、現在に至るまで継続的に発展しております。この取り組みの立ち上げにおいて、西口先生が果たされた役割は極めて大きいものでした。さらに第 2 期においては技術人材委員会委員長として、委員会活動を力強く牽引されました。特に、技術人材のエフォートテーブル策定においてはコアメンバーとしての役割を担われ、現場の実情に根差した実効性の高い仕組みづくりに多大なご貢献をされました。その着実で確かな取り組みは、協議会の活動基盤を大きく支えるものでした。

西口先生は、周囲の誰からも愛される温かなお人柄の持ち主でいらっしゃいました。常に誠実かつ堅実に職務を遂行され、その確かな仕事ぶりにより、協議会内外から厚い信頼を寄せられていました。同時に、穏やかで明るく、周囲に安心感を与え、自然と人を笑顔に導かれる存在でした。また、お酒を酌み交わしながらの語らいの場で、西口先生はいつも中心におられました。総会シンポジウムの前日や当日の懇談の席では、我が国の研究基盤をいかに強

くしていくかという真摯な議論が交わされる一方で、笑いの絶えない和やかな時間が流れていました。そうしたひとときにおいても、先生は人と人をつなぎ、場を温かく包み込む存在であったことを、私たちは忘れることができません。

西口先生は、私たちと志を共にし、協議会を支えてくださったかけがえのない仲間でした。先生を失ったことは、私、私たち幹事会、協議会、そしてひいては国立大学の研究基盤整備において計り知れない損失であり、誠に痛惜の念に堪えません。言葉を尽くしてもなお、この喪失の大きさを表すことはできません。ここに、西口先生のご生前のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、かけがえのない仲間を失った深い悲しみを胸に、謹んで哀悼の意を表します。

令和八年三月二十日

国立大学法人機器・分析センター協議会
会長 栗原 靖之